

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年三月度 入選句（投稿総数二九三八句・一般投句数五六三句）

特選

春ばかり大仏の鼻ふくれをり

愛知県大府市 西脇 晋哉

春埃・春塵。雪や霜が解け地表が乾燥して風が吹くと、塵や砂ばかりが舞い上る。春になると人の動きも活発になり、埃が立ちやすくなる。

現代は杉花粉や微粒化学物質が多量に存在する。大仏様の鼻もいろいろ刺激を受けていることであろう。あの大きな鼻の穴が嚏をしたらどうなるであろうか。などと想像すると面白い。

春ともし小さく円き詩人の書

岐阜市 島 めぐみ

春燈。春の夜の灯火のことで、落ち着いた華やかさ・艶やかさの情趣がある。それに詩人の書を取り合せた書字はその人の性格や心理が表れるという。小さな字は繊細で引つ込み思案。丸っこい字は幼さを残すと言われる。詩人の書は文字と詩の内容が相和しているのである。

群青の空ゆるやかに春の鳶

安八郡神戸町 清水 勝子

雲ひとつ無い群青色の空を、鳶がゆつたりと輪を描いて飛んでいる。
場所は、丘でも湖でも海でもよい。広々としている。大気の温さで春になったことが感じられる。

動詞を使わずに、鳶の動きや景が浮んでくる句である。

秀逸

連風や子らの夢乗せ山を越ゆ

大垣市 奥田 和子

雑草となるべくものの芽のいでて

東京都世田谷区 関戸 信治

鱮いま腹切られゐる旅の宿

瑞穂市 伊藤 恵水

春光の美濃みはるかす古墳跡

大垣市 中西 映衣子

晩年はこのままでもいい蜆汁

大垣市 中山 あや子

春灯真っ赤なワイン傾ける

大垣市 秋山 くに子

やはらかな木洩れ日つかむ露の茎

大垣市 宮脇 和子

早春の光を背に登校子

大垣市 小林 研

金樓梅や風の固さを解きほぐし

岐阜市 花川 和久

刻々と青む淡海や釵を挿す

愛知県豊田市 城山 憲三

入選

春 浅 し 響 く 木 魚 の 朝 の 寺
や う や く に 外 す 補 助 輪 春 立 つ 日
老 い て な を 君 に メ ー ル や 梅 開 く
料 峭 や 美 濃 を た ば ね し 武 将 の 碑
春 浅 し 肩 を 丸 め た 影 法 師
春 寒 し 老 い た る 母 の 傍 に 寝 ん
結 願 の 杖 休 ま せ る 涅槃 西 風
芽 柳 の 影 を 川 面 に 舫 ひ 舟
自 転 車 の 春 一 番 を 突 っ 走 る
卒 業 歌 練 習 し て る 無 人 駅

安八郡神戸町	早津	郁男
養老郡養老町	田中	紫香
大垣市	仁村	光生
大垣市	森川	きよ子
大垣市	多和田	一徳
大垣市	山田	千歌子
大垣市	臼井	秀子
大垣市	尾関	逸子
京都府宇治市	八田	弥須子
大垣市	傍島	隆

入選

二 つ 摘 み 狩 る 眼 と な り ぬ 露 の 薹
春 立 ち て 流 れ き ら ら と 藻 を 梳 き ぬ
梅 東 風 や ふ く べ 絵 馬 揺 る 一 夜 城
百 歳 と 卒 寿 の 散 歩 う ら ら け し
吊 り 籠 の 戸 毎 に 揺 れ て 城 下 町
針 供 養 縫 い 目 に 母 の く せ あ り き
藻 の 揺 れ て 音 も 光 も 春 の 水
待 ち 兼 ね た 術 後 の 一 歩 青 き 踏 む
春 き ざ す 一 語 一 語 の 膨 ら み ぬ
水 切 り の 波 紋 眩 し き 春 の 川

安八郡神戸町	高橋	泰
大垣市	北浦	典子
大垣市	久保田	悟義
大垣市	早崎	美弥子
不破郡垂井町	久保田	紘義
大垣市	平野	きぬよ
揖斐郡揖斐川町	栗野	みねお
兵庫県神戸市	紫	桔梗
長野県下伊那郡	長沼	まさし
神奈川県横浜市	龍野	ひろし

選者吟

庭 中 の 木 木 の さ さ や き 木 の 芽 雨

武 直